

製品名: MAK (リン酸化 Tyr159) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04967**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	MAK
別名	MAK; Serine/threonine-protein kinase MAK; Male germ cell-associated kinase
遺伝子 ID	4117.0
SwissProt ID	P20794
免疫原	抗血清は、ヒト MAK 由来の Tyr159 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 126-175

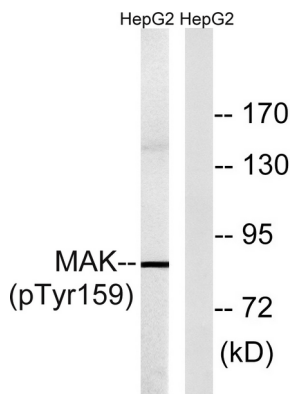
背景

この遺伝子産物は、細胞周期制御に関与するキナーゼに関連するセリン/スレオニンプロテインキナーゼです。マウスおよびラットの

相同遺伝子研究により、このキナーゼは精子形成における減数分裂中の染色体、特に相同染色体が対合している際に存在するシナプトネマ複合体に局在することが示されています。この遺伝子の変異は、網膜色素変性症 62 を引き起こす織毛異常と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016 年 1 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 精子形成において重要な役割を果たす可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr プロテインキナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。組織特異性: 主に減数分裂時および減数分裂後に精巣細胞で発現する。

研究分野

画像データ



PMA 125 ng/ml 30分処理した HepG2 細胞ライセートの MAK (リン酸化 Tyr159) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。